

| | | | |
|-----------------|---|-----------|--|
| 科目名 | 公衆栄養学 | 科目分類 | <input type="checkbox"/> 基礎教育科目 <input checked="" type="checkbox"/> 専門教育科目 |
| | | | <input checked="" type="checkbox"/> 卒業必修 <input checked="" type="checkbox"/> 栄養士必修 <input type="checkbox"/> 選択 |
| | | 開講年次 | <input type="checkbox"/> 1年 <input checked="" type="checkbox"/> 2年 |
| 英文表記 | Public Health Nutrition | 開講期間 | <input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input type="checkbox"/> 集中 |
| ふりがな | くりもり すみこ | 授業形態・修得単位 | 講義 2単位 |
| 担当教員名 | 栗 盛 寿美子 | 実務家教員担当科目 | ○ |
| 授業のテーマ | 食と健康の環境づくりのための公衆栄養活動を理解する | | |
| 授業概要 | 公衆栄養学の概念・枠組み・歴史。公衆栄養活動を通じての健康維持・増進。わが国と諸外国の栄養政策。公衆栄養における疫学。栄養活動の現状と問題点。公衆栄養のマネジメント・プログラムの展開を学ぶ。行政栄養士としての公衆栄養に係る実務経験を活かし、現状や課題の具体例を取り入れた授業を行う。 | | |
| 到達目標 | 集団や地域の特性に即した公衆栄養活動についての理解を深め基礎的知識を習得する | | |
| 授業時間外の学習 | 県・市町村の健康づくり推進対策を調べる | | |
| 履修条件 | 指定する教科書を必ず用意すること | | |
| 授業計画 | | | |
| 第1回 | テーマ：公衆栄養学の概念・公衆栄養活動の歴史 | | |
| 第2回 | テーマ：わが国の健康・栄養問題の現状と課題（1）健康状態の変遷・少子高齢化社会と健康・栄養問題 | | |
| 第3回 | テーマ：わが国の健康・栄養問題の現状と課題（2）食生活の変遷（国民健康・栄養調査） | | |
| 第4回 | テーマ：わが国の健康・栄養問題の現状と課題（3）食糧需給と自給率 | | |
| 第5回 | テーマ：わが国の栄養・食料政策（1）公衆栄養活動と関連行政・法規 | | |
| 第6回 | テーマ：わが国の栄養・食料政策（2）健康づくり施策の変遷（国民健康づくり運動・食育推進計画） | | |
| 第7回 | テーマ：わが国の栄養・食料政策（3）栄養・健康指導のガイドライン（食生活指針・食事バランスガイド） | | |
| 第8回 | テーマ：わが国の栄養・食料政策（4）栄養・健康指導のガイドライン（運動・休養・睡眠指針） | | |
| 第9回 | テーマ：公衆栄養マネジメント（1）公衆栄養のマネジメントサイクル | | |
| 第10回 | テーマ：公衆栄養マネジメント（2）日本人の食事摂取基準 | | |
| 第11回 | テーマ：栄養疫学（概要・食事調査の方法と活用） | | |
| 第12回 | テーマ：公衆栄養プログラムの展開（1）公衆栄養活動と行政栄養士の業務 | | |
| 第13回 | テーマ：公衆栄養プログラムの展開（2）食環境づくりのためのプログラム | | |
| 第14回 | テーマ：公衆栄養プログラムの展開（3）地域集団の特性別プログラム | | |
| 第15回 | テーマ：諸外国の健康栄養政策 | | |
| 第16回 | 定期試験 | | |
| テキスト | 芦川修貳監修「エスカパーシク公衆栄養学概論」最新版 同文書院 | | |
| 参考文献・資料 | 医薬基盤・健康・栄養研究所「国民健康・栄養の現状」概要版 第一出版 | | |
| 成績評価の方法 | 定期試験90% 課題10% 出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。 | | |
| 成績評価基準 | 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) | | |
| オフィスアワー | 授業終了後 | | |
| 受講生に望むこと・受講のルール | テキストの予習・復習を行う | | |